

キャリア教育の推進について

《課 題》

これまでの会議で課題として挙げられた「子供たちの職業観、県内の就職・労働状況、求められる人材などの実態把握の必要性」を受けて、令和 5 年度に実施した「キャリア教育の推進等に係る調査研究事業」におけるアンケート調査結果から読み取れる新たな課題

- 高校卒業段階までに、全ての子供たちに十分なキャリア意識を育てているとはいえない
- 目的意識をもった進学希望者が少ない
- 産業界が求める人材を十分に育成できているとはいえない
- キャリア教育における教職員の理解が十分ではない

《施策の方向性》

- 【企業との接触機会の充実と職業理解の充実】
インターンシップをはじめとした企業との接触機会の充実と職業や産業の理解を深める取組の促進
- 【自己理解に基づいた目的意識と社会で必要とされる資質能力の育成】
自己の適性を認識し、主体的にキャリアプランニングを図る力や、課題対応能力、人間関係形成能力の育成
- 【教員の質の向上】
時代に即した実践的な進路指導、産業と雇用の動向等についての教員研修等の充実
- 【生徒対象】
『自己理解とキャリア意識醸成の促進』
・子供たちが自己理解とキャリア意識を深めるとともに、自分の将来を考え、目標をもつ機会の充実。
『生徒と企業との接触機会の充実』
・子供たちに社会とのつながりを実感させ、様々な職業や産業を理解させるとともに、高卒就職者のミスマッチを防ぐ。
- 【教員対象】
・社会情勢や産業、職業、高校の専門学科について教員が学ぶ機会の充実。
・子供たちの職業観を育むことの意義や手法を学ぶ機会の充実。
・地域や産業と連携し、効果的なキャリア教育を実践する教員の育成。
- 【保護者対象】
将来の進路や職業を選択するに当たって、保護者が様々な職業の実情や魅力を知るための情報提供。
- 【企業・業界団体・経済団体等対象】
職場見学、職場体験、インターンシップなど、子供たちと様々な職業との接触機会を充実。

《これまでの会議での主なご意見》

- 理系人材が求められていると言われているが、むしろ文系にシフトしている。労働実態を踏まえた教育の見直しが求められると思う。
- 働くことが本当に楽しいということの教育が重要。
- 先生方の専門性を生かし、商工部門の知恵ももらいながら教材研究をして教育活動の充実がなされることが重要。
- 特別な能力を伸ばすところに目線を向けることが大事。
- 早期離職や労働市場とのミスマッチに関する調査は、まずは早期離職者から実施するなど段階を経てはどうか。
- 子供たちがなぜ自分は働くのかということを確かめながら育っていく、その仕掛けが非常に重要。
- 学校教育の場、その携わる教員を含めたスタッフの多様性をどのように維持していくのか。研修や、体験機会をどのように作っていくのか。
- 高校の進路指導の先生の意識改革、それぞれの生徒の個性に応じた的確な進路指導をお願いしたい。
- 本気でキャリア教育を進めていくなれば、労働と対価を肌身で感じられる機会も守っていかなくてはいけない。
- 最終的には、働くことが楽しいものであるということを、うまく感じてもらえるような流れを作る必要がある。
- 分かりやすい仕事が少なくなっている。オフィス等で働く人々の多様な仕事を可視化し、子供たちに届くようにしたい。働くことの喜びを伝えたい。
- 企業としては、即戦力ではなく、豊富な一般教養であったり、基礎的な考えができていたりする子を求めている。キャリア教育の中身についても再考が必要である。

令和6年度実績

【実態把握】

(1) キャリア教育の推進等に係る調査研究結果に基づく取組

令和5年度、高校卒業者の就職率低迷や早期離職率の高さ等の問題の原因分析を行い、今後のキャリア教育に係る政策形成上の参考とするため、中高生、大学生、社会人を対象とした職業意識に関する調査や、企業を対象とした高校生の雇用等についての調査を、株式会社ちばぎん総合研究所に委託して実施。

有識者により構成された「キャリア教育調査研究推進協議会」を4回開催し、調査内容や分析方法、今後求められる施策案等について協議。

- ・有識者から、キャリアプランニング能力の更なる向上を目的とした取組の必要性や、実社会との連携強化、教員研修の重要性などについて意見が出された

今年度は、調査結果に基づく施策の方向性を踏まえ、主に次の事業に取り組んでいる。

- 【生徒対象】『自己理解とキャリア意識醸成の促進』
 - 「中高生対象キャリア教育実践プログラム研究事業」
 - 「高校生のためのキャリアデザイン講演会の実施」
- 【生徒対象】『生徒と企業との接触機会の充実』
 - 「ちばで発見！職業観育成コンテンツの制作」
 - 「課題探究型キャリア教育ゼミの実施」
 - 「高校生の就職支援」
- 【教員対象】
 - 「中学校教員対象 専門学科（高校）の視察研修」
 - 「キャリア教育教員研修の実施」
 - 「キャリア教育の手引きの改訂」
- 【保護者対象】
 - 「産業教育フェアの実施」
- 【企業・業界団体・経済団体等対象】
 - 「高校生の就職支援」

【企業との接触機会の充実と職業理解の充実／

自己理解に基づいた目的意識と社会で求められる力の育成】

(2) ジョブカフェちば事業

若年者の正社員としての就労支援や、若年者と企業との交流イベントを通じたミスマッチの解消、若手人材の採用・定着を図るための事業を実施

- ・県立高校にて生徒向けセミナー等を25回実施予定（16校）
- ・県立の工業系高校と企業との交流イベントを実施

（令和6年11月清水高校で実施、参加企業12社）

(3) 中小企業人材採用・魅力発信サポート事業

千葉県商工会議所連合会が行う企業と教育機関との交流事業の支援や人材採用・定着に向けた研修を支援し、学生の就職・地元定着を図るための事業を実施

- ・高校進路担当と企業採用担当の交流会（就職情報交換会）を開催
（令和6年6月、10月実施、延べ参加高校26校、延べ参加企業117社）
- ・企業担当者が生徒の前で自社プレゼンを行う企業の魅力発表会を2回実施予定
（参加予定高校1校、参加予定企業3社）

(4) ワークルール講座

実際の就労に役立つ労働法の基礎知識を学ぶ機会を提供するため、社会保険労務士によるワークルール講座を県立高校12校で実施予定（令和6年12月1日現在、6月27日に姉崎高校で実施154名参加）

(5) 若年者への職業訓練の実施

各テクノスクールにおいて、中学や高校の新卒者の受入れを行い、就労に向けた技能の習得を支援（200名入校、うち中学卒業生1名、高校卒業生69名 R6.10現在）

(6) 未来の名工チャレンジ事業

各テクノスクールにおいて、若年者のものづくり分野への進路選択・職業選択のきっかけづくりを目的として、小・中・高校生を対象とした体験会を実施
（57コース、233名参加 うち小学生92名、中学生27名、高校生76名 R6.10末現在）

(7) ものづくりマイスター事業

厚生労働省が認定した、高度な技能と実務経験を有し技能の指導ができる「ものづくりマイスター」を活用し、工業系高校等での実技指導を実施
（派遣数8校、約735名参加 R6.10現在）

(8) 千葉県介護職の理解促進・魅力発信事業

給与等の処遇やキャリアプランを含めた介護職への理解促進を児童生徒や保護者に対し図るため、作成した教材を活用してもらえよう保護者・教員に周知

(9) 課題探究型キャリア教育ゼミの実施

地域課題の解決について探究するゼミを設置し、生徒が自己の役割・特性を理解しながら主体的に課題解決を図る能力の育成を目指している。専門学科を拠点校として、地域の複数の高校がグループを形成し、それぞれの専門性を生かして地域や社会の課題解決に取り組む。

- ・令和6年度は県内3グループ(①千葉工業、泉、生浜 ②銚子商業、銚子、旭農業 ③大原、一宮商業、大多喜)が活動中。
- ・令和6年5月27日(月)に、令和6年度「課題探究型キャリア教育ゼミ」協議会を開催
- ・令和7年3月に成果発表会を開催予定

(10) ちばで発見！職業観育成コンテンツの制作

中学・高校生が、産業や職業についての理解を深め、職業意識の形成や主体的な進路選択に役立てることを目的に、実社会で働く人のインタビュー動画等を制作し、YouTube「千葉県公式PRチャンネル」に公開するとともに、授業での活用例やワークシート例を県教育委員会のホームページに掲載し、教員向けの各研修や学校訪問等で周知することで活用を推進する。

(11) 高校生のためのキャリアデザイン講演会の実施

起業家やIT分野など新規発展を遂げている分野の著名人による講演を実施する。

(12) 高校生の就職支援

高校生の主体的な職業選択及び円滑な就職に資する、生徒対象の講演会や教員対象の研修会、インターンシップ保険費の補助や、インターンシップ等の受入れを行う事業所に係る情報提供を実施する。(指定28校30課程)

※職場体験、インターンシップ(高校生)の実施率 公立高校(全日制) 73.2%

(13) 中高生対象キャリア教育実践プログラム研究事業

中学生・高校生のキャリア意識を醸成し、目的意識をもった進路選択や学習への取組につなげるため、キャリアプランニングの考え方を学ぶとともに、自己理解を深めることで、自分の能力を生かしながら将来の進路を切り拓く力を育成するための実践的なプログラムを実施する。

(14) 専門高校の生徒や教員による体験授業の実施

専門学科や特色あるコースを設置する県立高校の教員及び生徒が、近隣の小・中学校の児童生徒等に対して、専門学科等の学びを教える体験授業等や広報活動を実施(実施校: R5年度73校、R6年度予定90校)

- ※実施例
- ・工業科: プログラミング、溶接体験
 - ・家政科: イオンモールでのファッションショー開催

(15) 中小企業の人材確保に向けた仕事体験促進事業【新規】

中小企業等の人材確保と若者の職場定着を促進するため、企業の魅力を広く知ってもらうための仕事体験ツアーを大学生や高校生等を対象に実施
(大学生等向け令和6年7～8月、11～12月実施)

【教職員の資質向上】**(16) キャリア教育の手引きの改訂**

小・中・高校における系統的なキャリア教育の実践に役立てるため、発達段階に応じたねらいや各教科における実践事例等を示すなどして、キャリア教育のポイントを理解しやすくまとめた資料「キャリア教育の手引き（改訂版）」を、県ホームページで公開。小・中・高校での実践的な活用が進むよう周知、指導した。

(17) キャリア教育教員研修の実施

教員が新しい時代に必要なキャリア教育について理解を深めるとともに、実践的なキャリア教育の指導力を身に付けるため、有識者等による研修を実施した。

(18) 中学校教員対象 専門学科（高校）の視察研修【新規】

中学校の教員に、県立高校の専門学科ではどのような学びを実践しているのかを、実際の授業の様子等を見学してもらうことで、専門学科への進学に関する見識を深めさせた。

【その他】**(19) テクノスクールの機能強化に向けた広報事業**

テクノスクールの入校促進のため、工業系高校との連携により作成した共同パンフレットを中学2年生・高校2年生全員に配布するなど、情報発信を強化